

伝統芸能

日本の祭り



いま、出かけよう！
日本の心を感じる祭典へ！
古来より、その地に根付く歴史と伝統を今に伝える祭りとは、
先人たちより受け継がれてきた、芸術と技能がここにある。

この冊子の内容は右記のホームページからご覧になれます。地域伝統芸能活用センター <http://www.dentogeino.or.jp>

この冊子は、宝くじの社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。



歴史と伝統の継承。 日本の魂をつなぐ祭りと伝統芸能

実施日 隔年4月29～5月1日
今年は4月29日(金・祝)～5月1日(日)



福岡県 豊前市 **感応楽**

実施日 毎年3月9日
今年は3月9日(水)



茨城県 鹿嶋市 **鹿島の祭頭祭**

10 4月 / 等覚寺の松会 P6

9 4月 / 感応楽 P5

実施日 毎年4月の第3日曜日
今年は4月17日(日)



福岡県 苅田町 **等覚寺の松会**

6 4月 / 壬生狂言 P4

実施日 毎年3月下旬
今年は3月下旬



青森県 佐井村 **福浦の歌舞伎**

地域伝統芸能賞受賞祭事を中心に選出しています

実施日 毎年4月29日～5月5日、10月の連休の3日間
今年は4月29日(金・祝)～5月5日(木・祝)…春の公開(大念仏会)
10月8日(土)～10(月・祝)…秋の特別公開



京都府 中京区 **壬生狂言**

2 3月 / 福浦の歌舞伎 P3

1 2月 / 旭岡山神社梵天奉納祭 P3

5 4月 / 糸崎の仏舞 P4

4 4月 / 跡部の踊り念仏 P4

3 3月 / 鹿島の祭頭祭 P3

7 4月 / 聖霊会の舞楽 P5

8 4月 / 窪野の八つ鹿踊り P5



目次	
● 日本各地の祭り・伝統芸能分布図	P1・P2
① 旭岡山神社梵天奉納祭	P3
② 福浦の歌舞伎	P3
③ 鹿島の祭頭祭	P3
④ 跡部の踊り念仏	P4
⑤ 糸崎の仏舞	P4
⑥ 壬生狂言	P4
⑦ 聖霊会の舞楽	P5
⑧ 窪野の八つ鹿踊り	P5
⑨ 感応楽	P5
⑩ 等覚寺の松会	P6

秋田県
横手市

あさひ おか やま じん じゃ ほん でん ほう のう さい 旭岡山神社梵天奉納祭



実施日

毎年2月16・17日
今年は2月16日(火)～17日(水)

300余年の歴史と伝統を誇る横手の『梵天』

旭岡山神社梵天奉納祭はおおよそ300年の歴史と伝統を誇る横手の小正月行事です。梵天とは幣束(神祭用具のひとつ)のことです。五穀豊穰、家内安全、商売繁盛など様々な願いを込めて、毎年2月17日に旭岡山神社に奉納します。横手の梵天の特徴は他に類を見ないほどの大きさ、優美さ、そして豪華さが特徴です。竿の長さは、4.3m(1丈4尺5寸)。その先に直径90cm(3尺)の円筒形の竹かごを取り付け、色鮮やかな布等の「さかり」を垂らします。それに、しめ縄や紙垂、鉢巻を取り付け、さらに干支、人形等の意匠をこらした頭飾りをのせます。頭飾りを取り付けると、その大きさは5mを優に超え、重さは30kg以上にもなります。毎年2月16日には梵天の出来栄を競って賑わうほんでんコンクールが行われ、翌日の17日には勇壮に奉納祭が行われます。



アクセス

- 横手市役所本庁舎前(16日コンクール、17日奉納祭出発場所)
電車：JR奥羽本線「横手駅」より徒歩約9分
車：秋田自動車道「横手IC」より車約7分
- 旭岡山神社(17日奉納祭会場)
電車：JR奥羽本線「横手駅」より徒歩約40分
車：秋田自動車道「横手IC」より車約15分(途中から徒歩)

一般社団法人 横手市観光協会

<http://www.yokotekamakura.com/>

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

青森県
佐井村

ふくうら かぶき 福浦の歌舞伎



実施日

毎年3月下旬
今年は3月下旬

漁師によって100年以上受け継がれてきた漁村歌舞伎

漁師によって100年以上受け継がれてきた、全国的にも珍しい漁村歌舞伎が佐井村にあります。

福浦地区の「福浦の歌舞伎」は、県無形民俗文化財に指定されています。明治時代に、上方の歌舞伎役者であった中村菊五郎とその妻が福浦を訪れた際、地元の人々に歌舞伎を教えたのが始まりとされています。娯楽や文化に乏しく、特に冬の楽しみのなかった当時の福浦の人々に受け入れられ、受け継がれてきました。

各家に一つの役が割り当てられ、また台詞は口伝であったために、台詞が地元の方言になっているという特徴があります。

歌舞伎は、春祭りなどに年に数度上演され、上演の際にはツアーなども組まれます。一般公開されるのは毎年3月末です。



アクセス

車：青森自動車道「青森東IC」より車約3時間30分
船：シライラインにて「青森市」より約2時間

佐井村観光協会

<http://saikanko.sakura.ne.jp>

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

茨城県
鹿嶋市

かしま さい どう さい 鹿島の祭頭祭



実施日

毎年3月9日
今年は3月9日(水)

「春一番、鹿島立ち」祭頭祭は春の訪れを告げる祭り

毎年3月9日に「イヤートホトホヤァー」の歌に合わせて、色鮮やかな衣装を身にまとった囃人が約180cmの檜棒を組んでは解きを繰り返しながら街中を練り歩く勇壮なお祭りです。総勢約380人の行列は「鹿島大神宮」ののぼりや馬簾(ばれん)などを手にした人々などで構成されます。奈良時代の頃、九州へ旅立つ防人たちの「鹿島立ち」の故事を表すとされる武運長久を祈る祭りと言われた時代もありましたが、現代では囃言葉からうかがえますが、五穀豊穰、天下泰平を願う祈年祭であると考えられています。

見どころは、鹿島大神宮境内での一斉囃しです。祭頭囃と檜棒の組み合う音で盛大に盛り上がります。その後の春季祭の雰囲気たっぷりの神事も見どころです。祭頭祭は鹿島地方に春を呼び、人々の健康や豊作を願って執り行われます。

鹿島神宮ホームページ

<http://kashimajingu.jp/>

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。



アクセス

高バス：東京駅八重洲南口より「鹿島神宮駅」行き約2時間(10～20分間隔運行)、「鹿島神宮」もしくは「鹿島神宮駅」下車、徒歩約10分
電車：JR鹿島線「鹿島神宮駅」より徒歩約10分
車：東関東自動車道「潮来IC」より車約20分

佐久市
長野県あど べ おど ねん ぶつ
跡部の踊り念仏

実施日

毎年4月第1日曜日
今年は4月3日(日)

佐久市内で受け継がれている、貴重な日本の伝統芸能

鎌倉時代中期、弘安2年(1279年)に時宗の開祖一遍上人が、佐久郡伴野荘に来て、小田切の里で踊り念仏を始行してから、佐久の各地でこの行儀が行われましたが、跡部の踊り念仏はその古い姿を伝えたものです。

南無阿弥陀仏の称名を始め数種の和讃を称えながら、棺台と同形の道場の中に、鉦を胸につけた踊り手数人が順次交替して入り、1人の太鼓方を中心に、その周囲を回りながら、踊ったり跳んだりして、いわゆる恍惚無我の境に入ります。用具は道場の施設・鉦・太鼓2面、鉦は各人が1個ずつ持ち、太鼓は2面を1人が扱います。服装は本来自由であり、出演者には年齢・性別に制限はありません。

時宗の踊り念仏は、昔は各地で行われたらしく、用具の残っていたところも少なくありませんが、現在これを演奏できるのは跡部の西方寺で行われているものだけです。国の重要無形民俗文化財となっています。

アクセス

電 車：JR小海線「中込駅」より徒歩約25分
車：中部横断自動車道「佐久南IC」より車約5分

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。



佐久市観光協会

<http://www.sakukankou.jp/>福井市
福井県いと さき ほのけのまい
糸崎の仏舞

実施日

隔年4月18日
今回は、平成29年4月18日(火)

約1250年の歴史を持つ、優美に舞う中国伝来の舞

福井県福井市糸崎町の糸崎寺に1200年以上前から伝わり2年に一度開催される舞楽で、祭り当日は観音堂の正面に設けられた舞台上で、金色の面を付けた舞人が舞を奉納します。この舞には、仏の慈悲と喜びを分かち合うという意味が込められ、その想いをわずかに37戸の小さな集落が1200年以上も連綿と受け継いできたものです。

伝承によると、糸崎の浦を通りかかりその景観が明州育王山に酷似していることに喜んだ唐の高僧禅海上人が、糸崎に草坊を結んで仏法興隆に励んでいると、緑毛に包まれた大亀に乗って千手観音が現れ、糸崎寺の本尊として観音堂に祀ったとされています。その開眼供養の大法要の際、諸々の菩薩が紫雲に乗って現れ、舞を舞ったことが仏舞の始まりとされています。

平成16年に国の重要無形民俗文化財に指定されています。



アクセス

電車：JR北陸本線・九頭竜線「福井駅」より京福バスにて
鮎川(アユカワ)小丹生(コニユウ)方面乗り場から約40分
「松陰(マツカゲ)」で下車、徒歩約15分案内看板あり
車：北陸自動車道「福井IC」または「福井北IC」より約40~50分※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。
お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。中京区
京都府みぶ きょう げん
壬生狂言

実施日

毎年4月29日~5月5日、10月の連休の3日間
今年は4月29日(金・祝)~5月5日(木・祝)…春の公開(大念仏会)
10月8日(土)~10(月・祝)…秋の特別公開

古来より庶民大衆に親しまれてきた演劇

壬生狂言は壬生寺の年中行事の法要であって、狂言は本来この期間、朝・昼・夜の勤行のうち昼のお勤めとして、壬生大念仏講中が壬生寺ご本尊の地藏菩薩に奉納するものであり、「壬生さんのカンデンデン」と、大昔から京の庶民大衆に親しまれて来ました。

今から約700年前の鎌倉時代、正安2年(1300年)に、壬生寺を大いに興隆された円覚上人が、一般大衆に最もわかりやすい方法で仏の教えを説こうとして、一般の能狂言とは異なり、身ぶり手ぶりのパントマイムに仏の教えを仕組まれたのが、壬生狂言の始まりと伝えられています。永い間には大衆の娯楽である演劇の面でも発展し、本来の宗教劇のみならずレパートリーをひろげて現在は30番の演目があります。

近年、民俗文化財としての評価が高まり、昭和51年には国の重要無形民俗文化財として、京都府下からは第一番に指定をうけています。また舞台は特異な建造物であり、昭和55年に重要文化財に指定されました。



アクセス

電車：嵐電「四条大宮駅」下車、約1km先
バス：市バス・京都バス「壬生寺道」下車、約200m先

壬生寺ホームページ

<http://www.mibudera.com/>※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。
お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。

大阪府
大阪市

しょうりょう え ぶ がく 聖霊会の舞楽



実施日

毎年4月22日
今年は4月22日(金)

鎌倉時代から続く国の重要無形民俗文化財

聖霊会は、毎年4月22日(本来は旧暦の2月22日)聖徳太子の命日を行われる舞楽と法要が渾然一体となった舞楽大法要。法要と舞楽が一体となった古の大法要を今に伝え、日本三舞台の一つである石舞台で披露される聖霊会の舞楽は、三方楽所天王寺方の伝統を受け継ぐものであり、重要無形民俗文化財です。六時堂の中央奥に聖徳太子摂政像の掛け軸、左右に玉輿(ぎょくよ=仏舎利)と鳳輦(ほうれん=太子)が安置され、唄・散華・梵音・錫杖の四箇法要と、舞楽が交互に演じられます。天王寺楽所雅亮会による舞楽は、左方(東)、右方(西)の二列に分かれて進行しますが、雅楽も左右両楽舎に分れて演奏されます。誰でもこの日に四天王寺に来ると豪華絢爛な絵巻を彷彿とさせる舞楽を無料で観覧できます。

四天王寺ホームページ
<http://www.shitennoji.or.jp>

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。



アクセス

電車：JR大阪環状線「天王寺駅」より徒歩約12分
大阪市営地下鉄 御堂筋線・谷町線「天王寺駅」より徒歩約12分
大阪市営地下鉄 谷町線「四天王寺前夕陽ヶ丘駅」より徒歩約5分
近鉄 南大阪線「阿部野橋駅」より徒歩約14分

愛媛県
西予市

くぼの や しかおど 窪野の八つ鹿踊り



実施日

毎年4月第3日曜日
今年は4月17日(日)

鹿踊りの中でも古式を伝える国の無形民俗文化財

窪野の八つ鹿踊りは、例年4月、三滝神社の大祭の日に社前に奉納されてきたものです。哀調を帯びた旋律とそれをきざむ絨さな太鼓の音が谷間にこだまし、素朴だが優雅な趣が深いです。踊りの概要は、道行き～庭入り～長唄～音頭の舞～むすびと流れて小一時間の舞となります。一匹の雌鹿をめぐっての雄鹿の争いが繰り広げられます。この踊りの起こりは、仙台伊達正宗の長子秀宗の宇和島入封がきっかけとなり、この地域に伝わったというのが通説ですが、窪野地区ではそれより早い時期とする説もあります。後にこの地の庄屋の矢野惣左衛門が、友を連れて先代までおもむき、本場の踊りの師匠を連れ帰り、鹿笛、鹿唄、長唄、音頭唄、振りつけなどを約半年かけて手ほどきを受け、現在の形になったと言伝えられています。串屋地区の住民が中心となり保存伝承につとめています。過疎と少子高齢化により伝承保存に困難が生じています。

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。



アクセス

車：松山自動車道「西予宇和IC」より車約60分

せいよ観光物産サイト
<http://www.seiyo1400.jp/>

福岡県
豊前市

かんのうがく 感応楽



実施日

隔年4月29～5月1日
今年は4月29日(金・祝)～5月1日(日)

ご神体を載せたみこしや山車が、八屋地区を中心に練り歩く

大富神社では春の「神幸祭」、夏の「名越祭」秋の「御供揃祭」と三つの大祭があり、中でも最も規模の大きいものが春の神幸祭です。この神幸祭(八屋祇園)の時に隔年で奉納されるのがこの山田の感応祭です。感応祭は天地感応楽・国楽とも呼ばれています。舞の中心になるのは、中楽六人と団扇使二人で、団扇使は袴に菅笠、角団扇をもち楽の指揮をとります。中楽は前垂、ヘラの皮の腰蓑、赫熊をつけ、締太鼓を胸の前に抱え、背に幣を立てるという出で立ちで、中心的な役割を果たします。お囃子は笛・鉦で構成され、この他に読み立て・丸大団扇持ち、汐水取り、さらに側楽(花楽)として中楽と同じ服装で子供達が参加します。中央に幣をたて、団扇使い、中楽を内側に、側楽・囃子と三重の円陣を組んで、中楽は撥を大きく振り上げ太鼓を打ち鳴らし、激しい動きを通じて神と感応する、という舞楽です。

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。



アクセス

電車：JR日豊本線「豊前松江駅」より徒歩約30分
JR日豊本線「宇島駅」よりバス「大富神社前」下車
車：国道10号大村横矢橋信号より約5分

豊前市ホームページ
<http://www.city.buzen.lg.jp/hachiyagion.html>

福岡県
荊田町

とかくじまつえ 等覚寺の松会



実施日

毎年4月の第3日曜日
今年は4月17日(日)

国指定重要無形文化財となった山岳修験道の祭礼

福岡県京都郡荊田町の北西部に位置する等覚寺集落にある白山多賀神社で毎年4月の第3日曜日(2016年は4月17日)に行われており、954年に、谷の坊覚心によってはじめられたと伝えられています。

松会の行事は、4月第1日曜日の「柱起し」に始まり第2土曜日に「メ下ろし」・「幣はぎ」、第2日曜日に「御座」・「綱かけ」、第3土曜日に「塩会」を経て、第3日曜日に松会を迎えます。松会は、「禊」・「神殿礼拝」・「大幣奉納」・「鬼会」・「種子蒔き」・「田打ち」・「おとんぼし」・「田植え」・「孕女」・「長刀舞」・「鉞舞」・「楽打ち」・「幣切り」が現存しています。

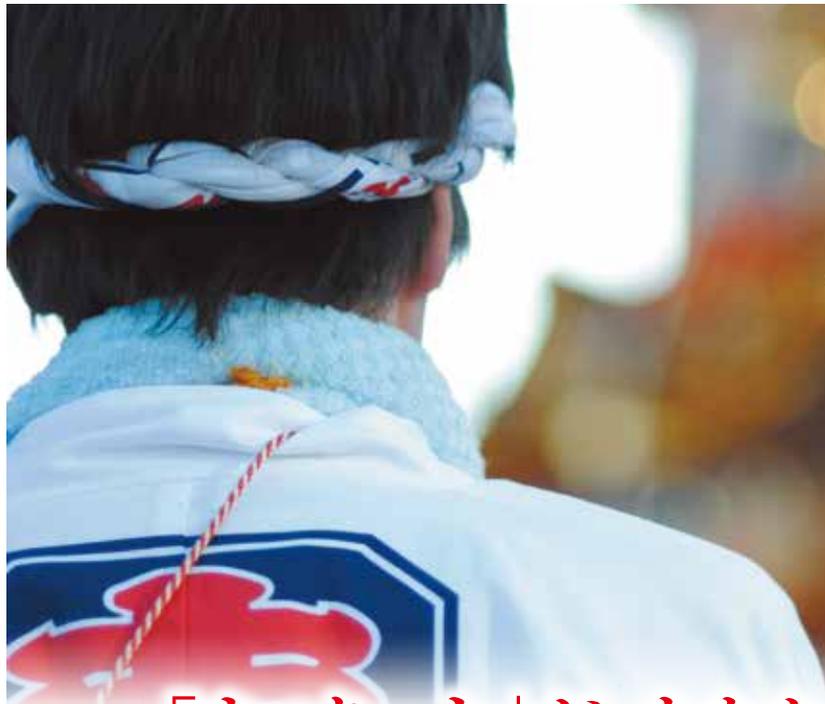
なかでも「幣切り」は、現在では「等覚寺の松会」にのみ伝えられており、荊田町の誇るべき文化遺産となっています。

荊田町ホームページ
www.town.kanda.lg.jp/

アクセス

電車：JR日豊本線「小波瀬西工大前駅」より車約30分
車：西部公民館、JAライスセンター、戸早学園の各駐車場よりシャトルバス運行

※実施日付・場所等スケジュールが変更になる場合があります。お出かけの際は、事前に最新の情報をご確認ください。



「まつりーと」が、あなたの町のお祭りを 元気にするお手伝いをします!

たとえば、こんなことにお困りでしたら、ぜひご登録ください。

- 祭り参加者をスムーズに集めたい
- 祭りの担い手が少なくなり、他地域から参加者を募りたい
- 他地域からの祭り参加者を増やして、町を活性化させたい

「まつりーとサイト」で出来る事

- 参加者の募集
祭りへの参加者を募集するため、募集情報を掲載することができ、参加希望者からの情報は、メールにて受け取る事が出来ます。
- 祭り情報、周辺観光情報の掲載
祭りを広く周知するため、祭り情報も掲載することができます。その他、周辺の観光情報等を掲載でき、いつでも更新することができます。

<http://matsuri-sanka.net>

まつりーと事務局(一般財団法人地域伝統芸能活用センター)
TEL . 03-5809-3782 E-mail : support@matsuri-sanka.net

人とまつりと地域をつなげる

まつりーと

まつりーと





宝くじは、 みなさまの 豊かな暮らしに 役立っています。

宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の
整備をはじめ、少子高齢化対策や災害に
強い街づくりまで、さまざま
かたちで、みなさまの
暮らしに役立っています。

一般財団法人 日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や
公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。



一般財団法人

日本宝くじ協会

ホームページ

<http://jla-takarakuji.or.jp/>

